

# 内海小かわら版 号外



## 平成29年度 学校評価について

平成30年3月15日

保護者・全児童・教職員を対象に、今年度の内海小学校の教育についてアンケートを実施し、自己評価として検証しました。また、学校評議員やPTA役員・委員の皆様にも、学校関係者評価として評価内容を検証していただきました。学校評価の概要を以下の通り報告させていただきます。紙面の関係で一部の紹介となります。

(アンケート回収数 児童201人 保護者141人[兄弟でそれぞれ回答する項目については193人] 教職員16人、小数点以下を四捨五入しているため、グラフの項目によっては合計の数値が100%にならないところがあります)

### ① 学校生活について

90%を超える多くの児童が学校生活を楽しいと回答しており、保護者の評価もとても高いです。しかし、「(あまり)楽しくない」という児童も7%余りいます。また、いじめについても「(あまり)ない」と答えた児童が、86%いる反面、少なからずいじめがあると感じている児童は、14%いるのが現状です。

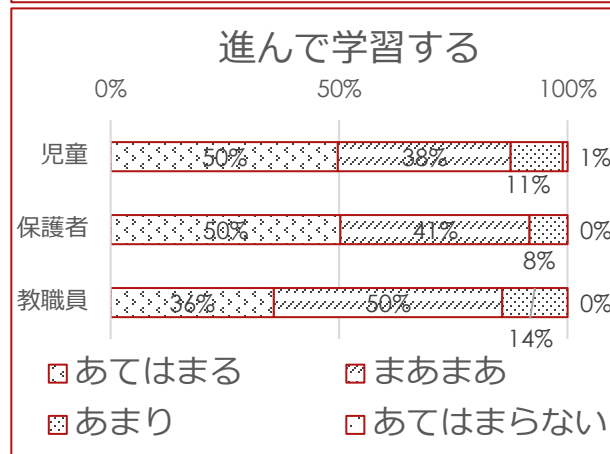
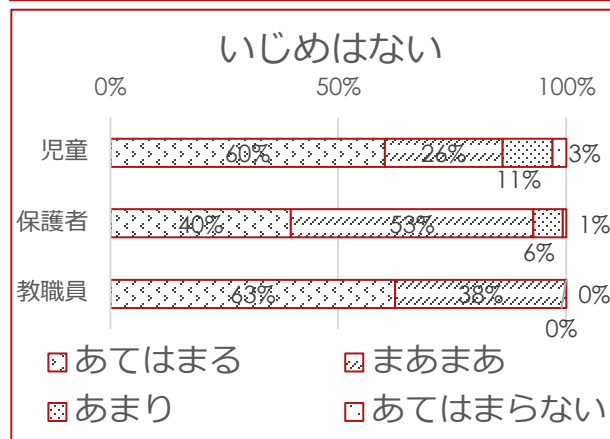
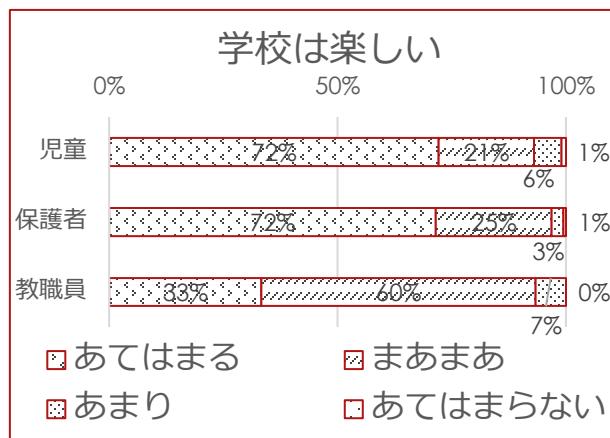
アンケート調査を行い、実態を把握し、学期ごとに教育相談を実施し、児童の悩みなどを聴く機会を設けてきましたが、改善すべき点もまだまだあります。学校が楽しくないと感じている児童やいじめを見過ごすことなく、今後とも教師がきちんと子どもたちの声を聴き、声をかけていくようにしていきたいと思います。

### ② 学習面について

学習に意欲的に取り組んでいるかどうかについては、90%近い児童が意欲的に取り組んでいると答えており、保護者の評価も90%を超えています。

「(あまり)意欲的でない」と答えた児童は12%と昨年度より減少していますが、今後とも魅力的な授業づくりを通していっそうの意欲化を図っていきます。

また、基礎学力の向上については、補充授業やチャレンジ学習などの取組などを通して、算数・国語を中心に今後とも取り組んでいきます。



家庭学習については、「宿題など家でもきちんと勉強している」という児童が90%を超えており、保護者の評価も同様に高くなっています。

年度当初「家庭学習の手引」という冊子を各家庭に配付しましたが、子どもたちの実態を見ると、活用の仕方を含め、今後とも、発達段階に応じた家庭学習の取組について、各家庭とも連携し、定着を図っていく必要があると考えています。「進んで自分の考えを発表する」という質問については、児童・保護者とも90%を超える高い評価となっていますが、自信をもって発表できない児童もおり、基礎学力を定着させていくと共に、総合的な学習の時間や教科・道徳の授業や行事等の場面で各自が自分の考えを発表できるように今後とも授業を工夫していきます。

### ③ 安全面について

風水害・大規模地震等への対応などの面では、保護者の皆様からは高い評価をいただいています。昨年度から、林之峯へのルートが通れない等の場合も想定して、東端の高宮への津波避難訓練を実施したことなどが評価されていると考えます。また、児童の日頃からの安全へ対応意識を高めるため、今後は、安全面を配慮しながら、校内での避難訓練などの一部を児童に予告せず実施することなども検討していきたいと考えています。

### ④ その他

保護者からは、校外学習についての弁当持ち・おやつの有無や学年での日程の差などについて疑問に思う声が複数ありました。校外学習については、教科としての目的や総合的な学習の時間との関連・発達段階に応じた内容・行程をきちんと見直していきたいと考えています。また、「学級だよりに掲載の子どもに偏りが見られ、先生の個人的な好みがおもてに出過ぎていて学校生活の中で『えこひいき』がされているのでは!と心配しながら見守っています」などの声や、いじめや体罰の問題などを含め、学校・教師への不信の声もあるのも事実です。2月に行われた学校評議員会では、こうした声にもきちんと耳を傾けながら「学校が楽しくない」と感じる児童がなくなるように、学校は努力してほしいとの話がありました。いじめや体罰は絶対に許せない行為であるということを肝に銘じ、アンテナを高くして子どもたちの気持ちに寄り添うと共に、教師として研修などの機会を通して資質向上を図っていきたくと考えております。今後とも子どもたちの健やかな成長のため、保護者・地域の皆様と協力して教育活動に努めてまいります。よろしくお願いいたします。

